

Studio/Robot v22.10 インストールガイド

2023年3月

UiPath 株式会社



- 本ガイドの内容は 2023 年 4 月現在の情報であり、本ガイドは、下記の製品（以下「本製品」といいます。）を説明するものです。
 - UiPath Studio v2022.10
- 本製品、本製品を構成するプログラムまたは本製品が依存しもしくは本製品と連携する外部サービスがアップデートまたは修正される等によって、本製品が本ガイドの説明と異なる動作をする、または仕様となる可能性がありますので、予めご留意ください。当該アップデートまたは修正等の後に本ガイドが改訂された場合には、当該改訂後の本ガイドが本製品を説明するものとなります。
- 本ガイドに含まれる情報は可能な限り正確を期しておりますが、本ガイドに記載された内容の正確性、充分性等に関して UiPath株式会社（以下「UiPath」といいます。）は何ら保証していません。従って、本ガイドに含まれる情報の利用はお客様の責任においてなされるものであり、UiPathはガイドの内容によってお客様が受けたいかなる損害に関して何らの補償をするものではございません。
- 本ガイドはUiPathを法的に拘束する書類ではありません。UiPathはお客様に通知なくして、本ガイドの内容の一部または全部を修正およびアップデートできます。
- 本ガイドの著作権などの一切の知的財産権は、UiPathまたはその関係会社に帰属します。お客様は UiPathの書面の承諾なしで本ガイドを複製、修正、頒布、公衆送信等できません。

目次

- UiPath のコア製品について
- インストーラーについて
- ライセンスの種別と、Studio/Robot の構成
- Orchestratorに接続する手順
- Orchestrator 側に Studio/Robot のライセンスを割り当てる手順
- パッケージの操作
- 補足

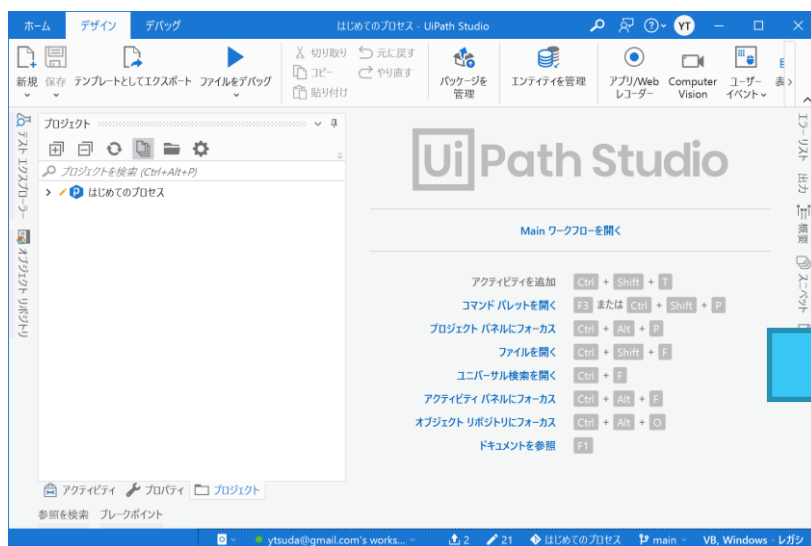
UiPath のコア製品について

- Studio
- Robot
- Orchestrator



UiPath の自動化は、Studio で開発し、Robot で実行します。

UiPath Studio



自動化プロセス
パッケージ



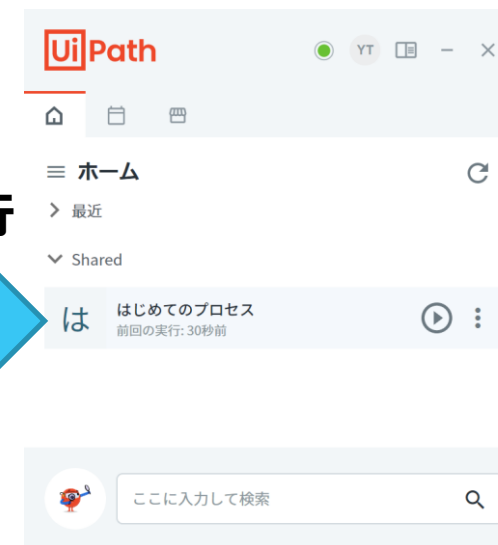
開発

実行

パブリッシュ



UiPath Robot



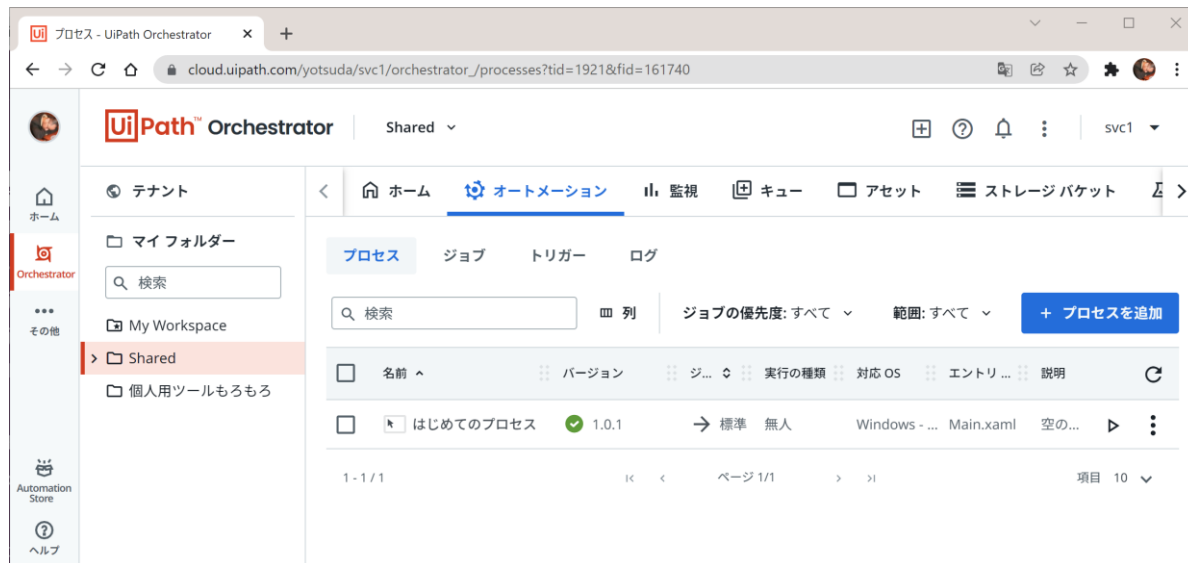
開発を完了した自動化プロセスは、Robot で実行します。

- Studio 上でデバッグ実行するよりも、高速に実行できます。
- 作成した自動化を、誤って変更してしまってもありません。

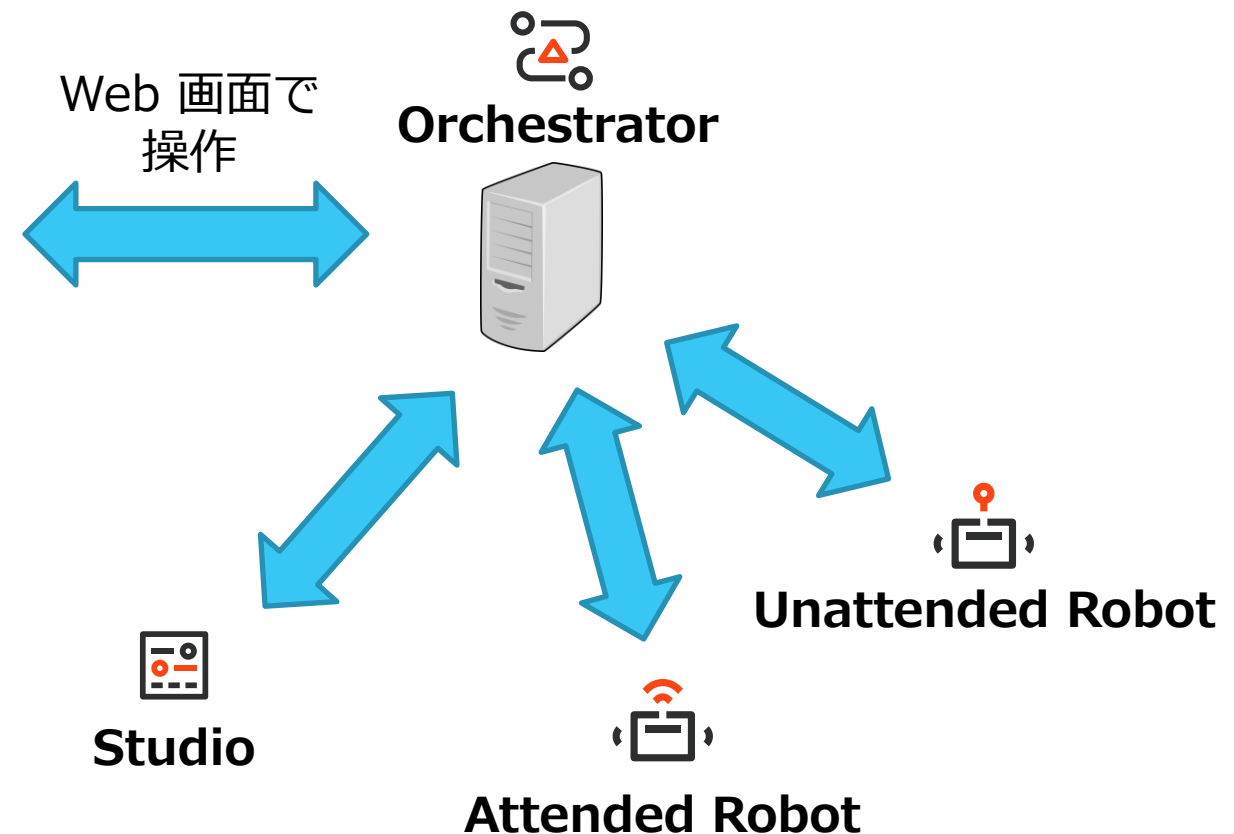
※ Robot のこの設定画面を Assistant といいます。

UiPath Orchestrator

Orchestrator は、複数の Studio/Robot マシンを管理するサーバー製品です。オンプレミス環境にインストールして利用することも、SaaSソリューションである Automation Cloudの機能の一部として利用することもできます。



各 Studio/Robot にライセンスを配布したりログを集中管理するなどのことが行えます。

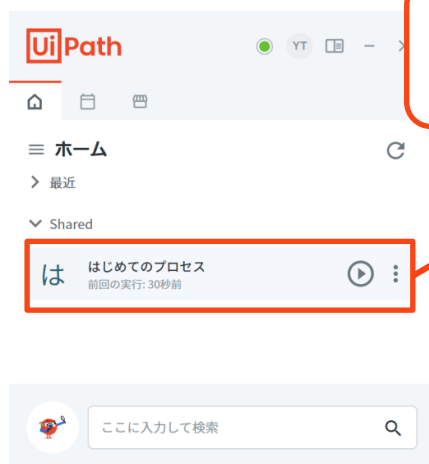


Attended Robot と Unattended Robot

UiPath Robot は、その利用形態によって Attended もしくは Unattended に区別されます。

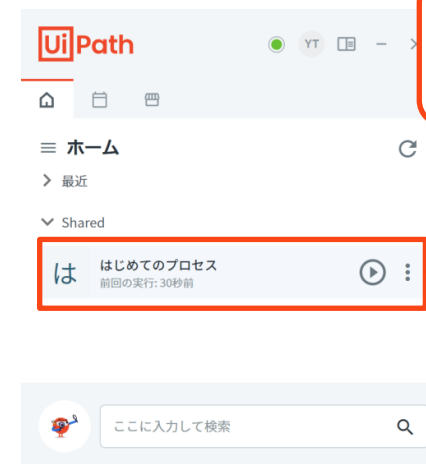
Attended と Unattended は、ソフトウェアとしては完全に同一です。
ライセンスによって、利用方法が制限されることにご注意下さい。

Attended Robot



Assistant ウィンドウから
手動で実行開始を指示

Unattended Robot

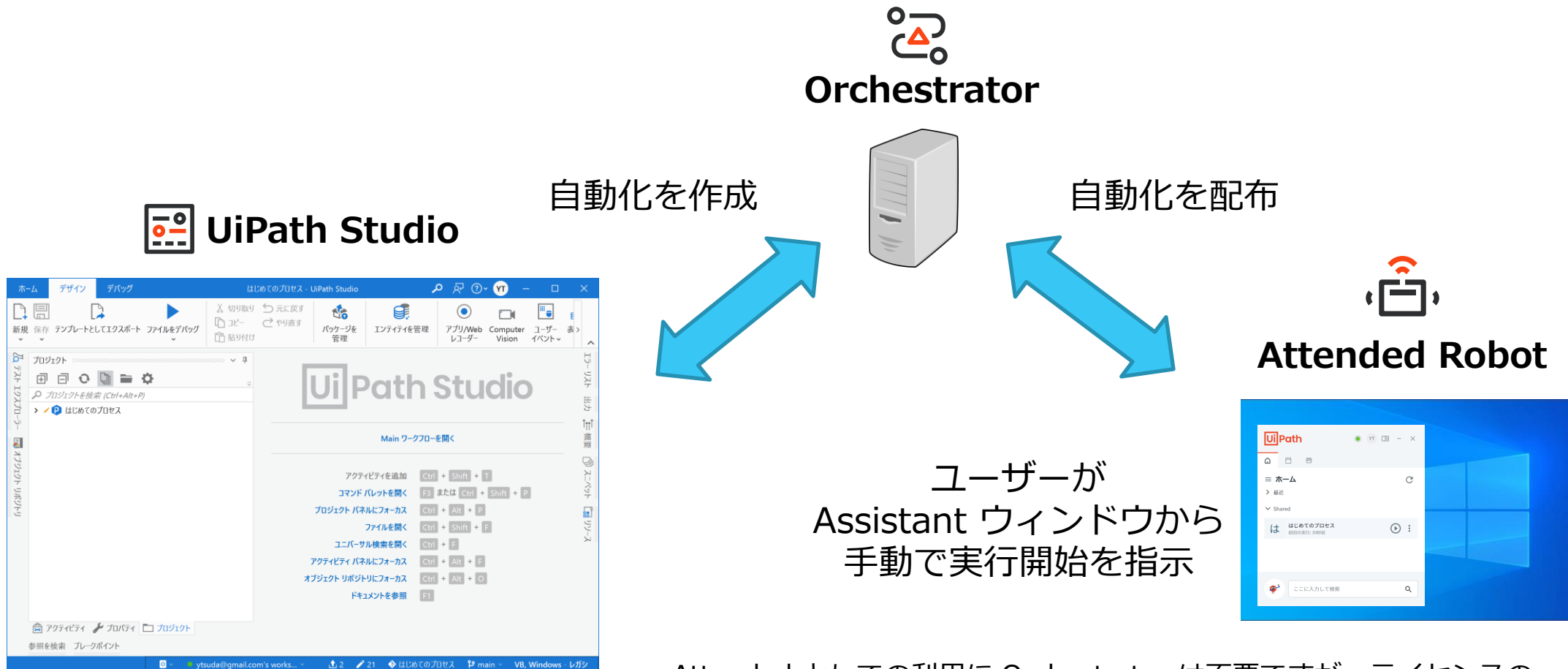


Orchestrator が
自動で実行開始を指示

Attended としての利用に Orchestrator は不要ですが、後で Orchestrator を導入することも容易です。

Attended Robot

Studio で開発した自動化は、Orchestrator を介して別の（複数台の）マシンの Robot に簡単に配布できます。

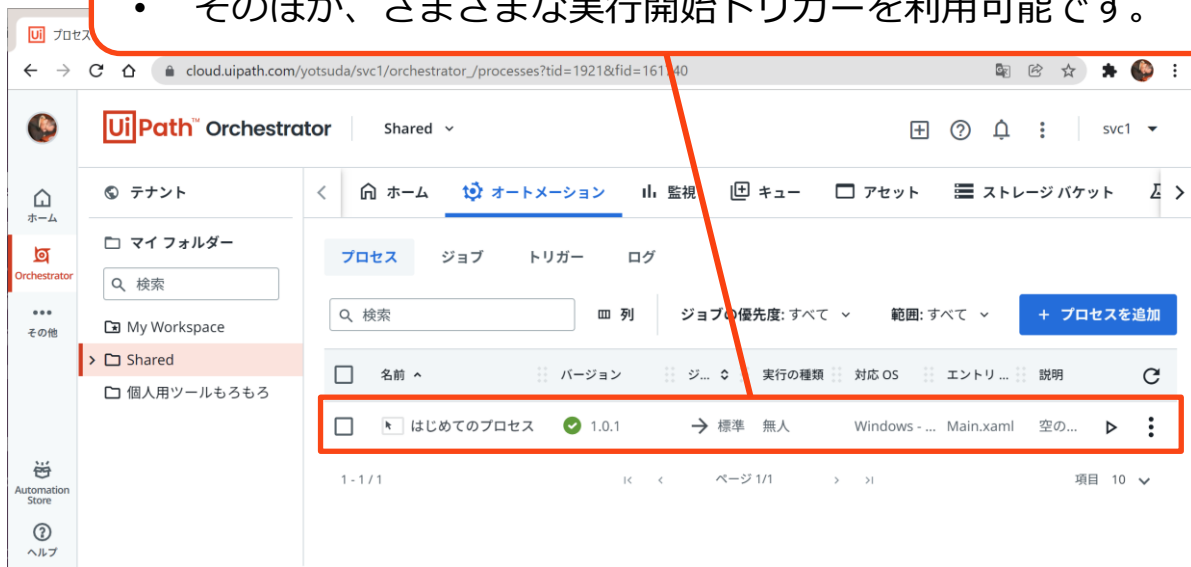


Attended としての利用に Orchestrator は不要ですが、ライセンスのアクティベーションや、作成した自動化の配布には Orchestrator が便利です。

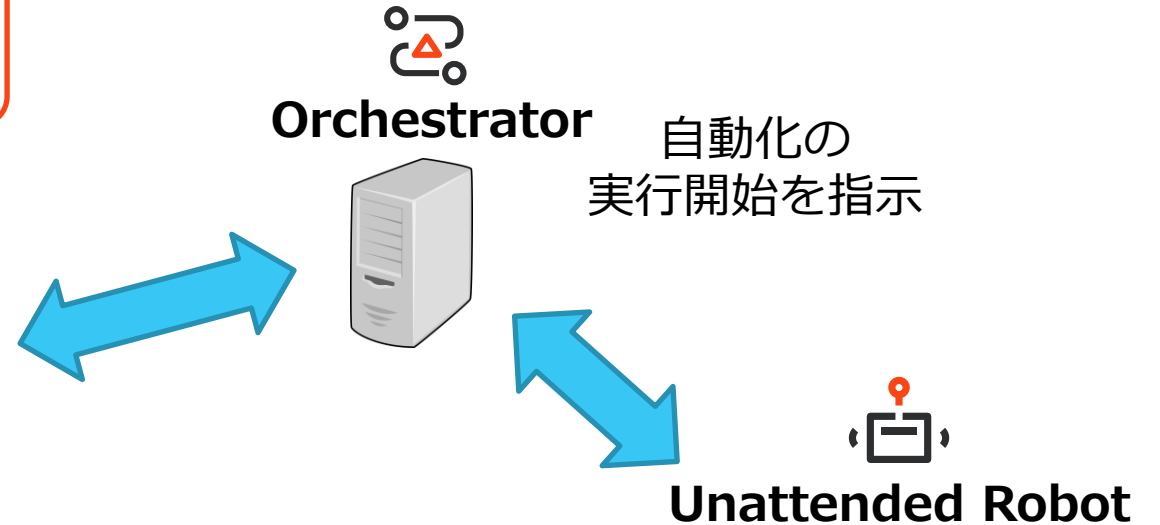
Unattended Robot

Unattended Robot は、Orchestrator からの指示に従い、無人の PC に自動でログインして自動化を実行します。

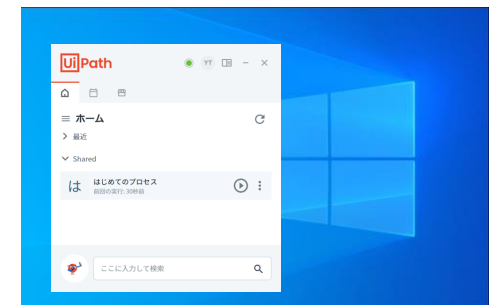
- ユーザーが、実行開始を Web 画面から手動で指示できます。
- スケジュールを構成しておき、自動で実行開始もできます。
- そのほか、さまざまな実行開始トリガーを利用可能です。



Unattended の利用には、Orchestrator との接続が必須です。



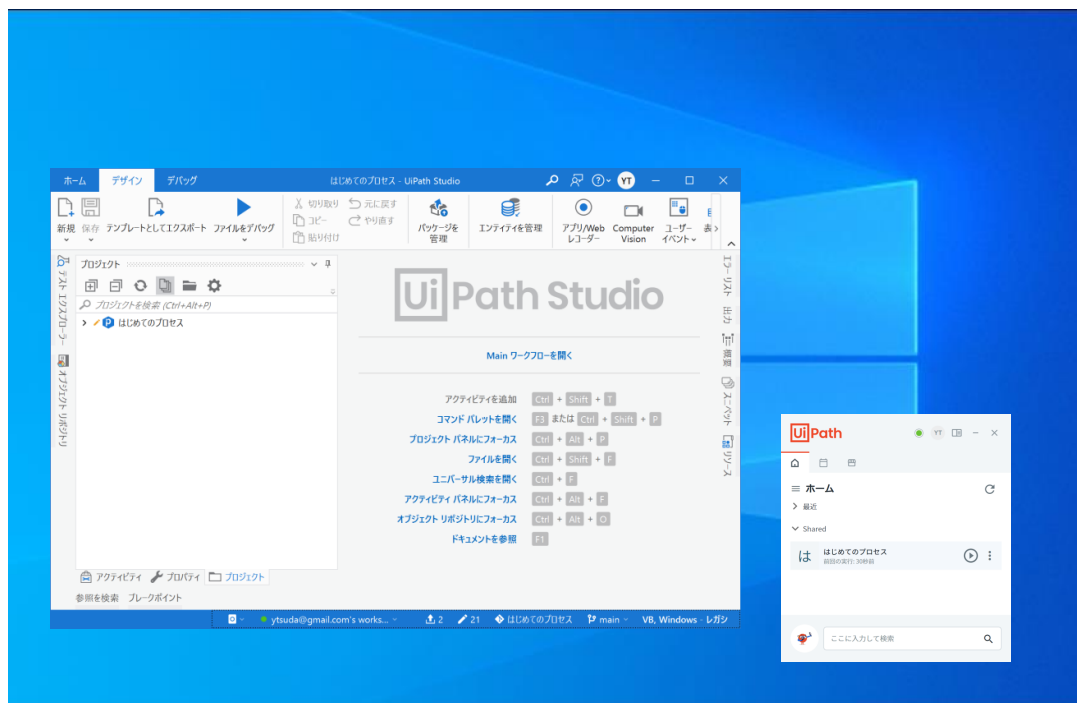
無人の PC にログインして自動化を実行し、ログオフ



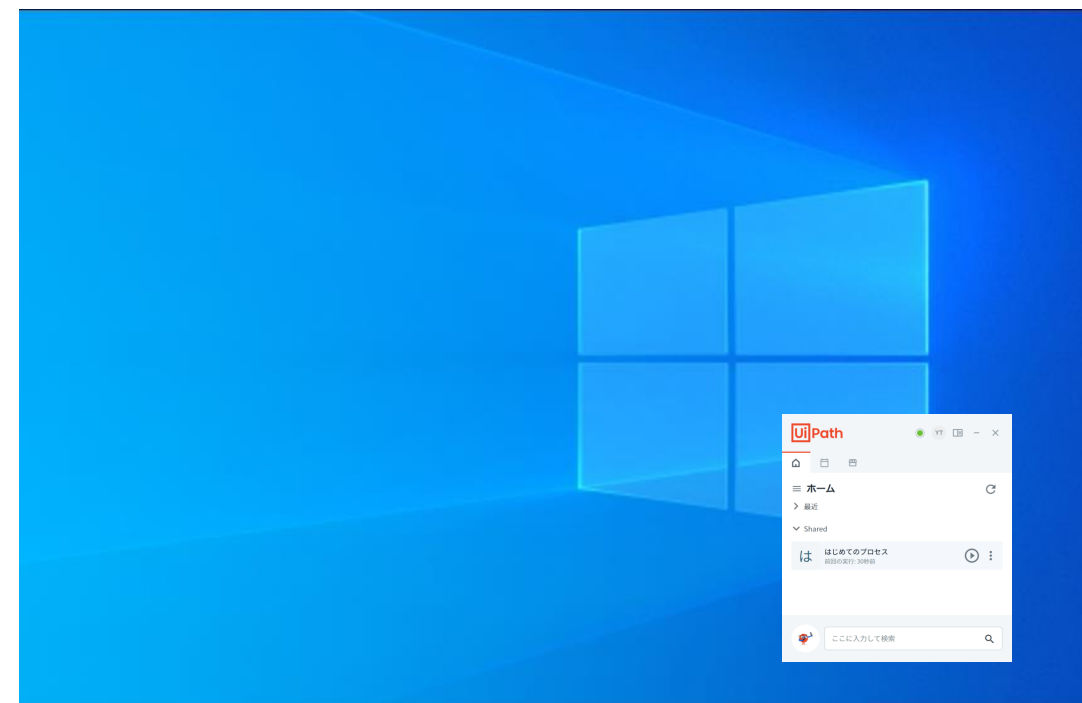
Studio と Robot の構成

Studio と Robot は、次のいずれかの構成でインストールできます。

A) Studio と Robot の両方をインストール



B) Robot のみをインストール



インストーラーについて

- インストーラーの入手
- インストーラーの種別
- システム要件の確認




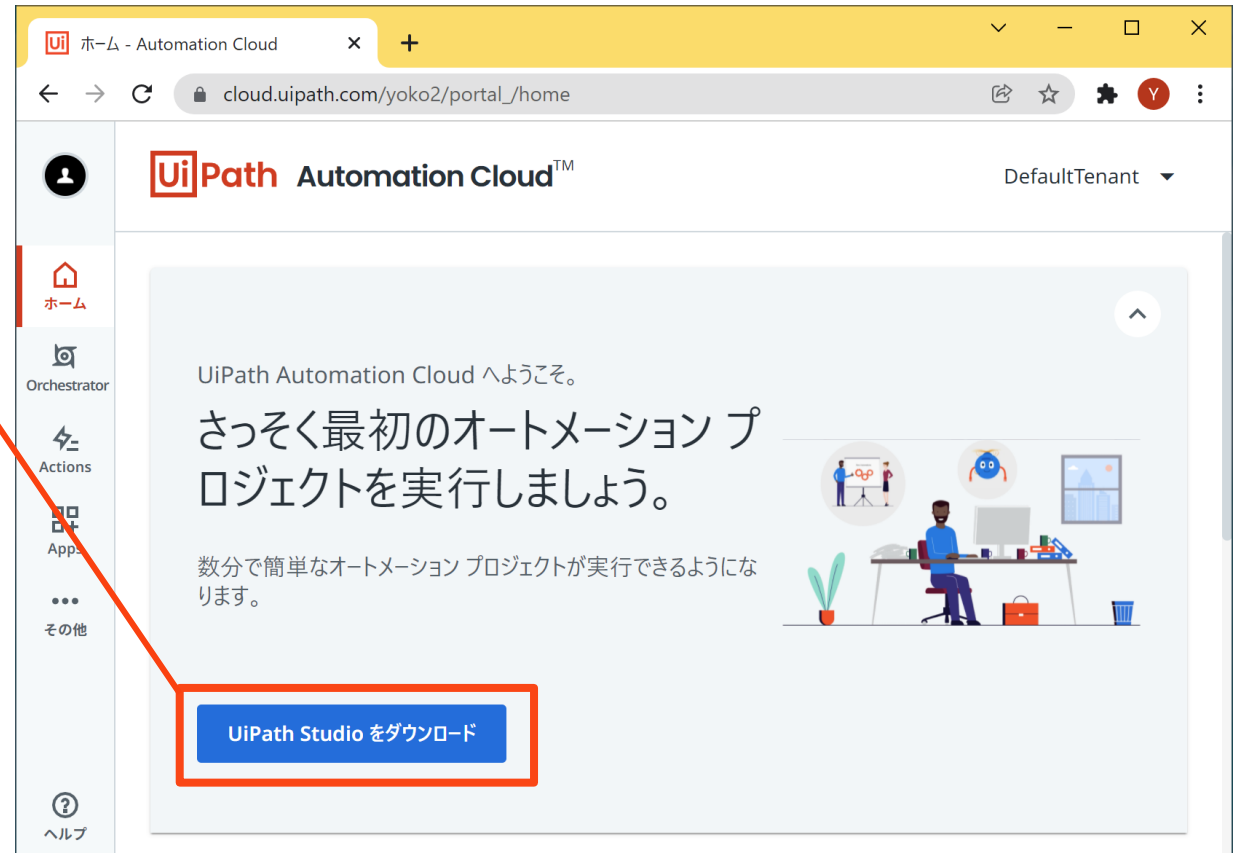
インストーラーの入手

UiPath Automation Cloudにアカウントを作成し、ログインして下さい。

UiPath Automation Cloud

<https://cloud.uipath.com/>

- ここから Windows 版のインストーラーをダウンロードできます。
- Mac 版などのほかのインストーラーは Automation Cloud 画面右上  の「ダウンロード」から「リソースセンター」を開いてください。
- 「リソースセンター」を有効にするには、Automation Cloudの [管理] -> 「ライセンス」ページから、Enterprise 無料評価版をリクエストします。



インストーラーの種類別

インストール先の OS に適切なインストーラーを入手して下さい。

製品	インストーラー※1	インストール可能な環境
Windows Studio/Robot 32-bit	<ul style="list-style-type: none">• UiPathStudio-x86.msi※2	<ul style="list-style-type: none">• Windows 32-bit• Windows 64-bit
Windows Studio/Robot 64-bit	<ul style="list-style-type: none">• UiPathStudio.msi ※3• UiPathStudioCloud.msi• UiPathStudioCommunity.msi	<ul style="list-style-type: none">• Windows 64-bit

※1 v2020.10 までは 32-bit 版のインストーラーのみ利用可能です。
v2023.4 からは 64-bit 版のインストーラーのみ利用可能です。(32-bit 版のインストーラーは廃止されます)

※2 Studio/Robot 32-bit 版がインストール済みの場合も、64-bit 版のインストーラーでバージョンアップできます。
(64-bit 版が利用可能なバージョンは、その 32-bit 版を 64-bit OS にインストールすることはできません)

※3 複数のインストーラーが利用可能ですが、どれを使っても同じ結果が得られます。
(良いユーザーエクスペリエンスを提供するため、既定のアクティベーション方法のみ異なります)

要件を満たさないマシンにインストールした場合、動作は保証できません。

- UiPath 製品のバージョンにより、製品の要件が異なる場合があります。
- バージョン選定時には、既存マシンのスペックも考慮して下さい。

ハードウェア要件	ソフトウェア要件
<ul style="list-style-type: none">• CPU のコア数とビットネス• RAM• ディスク領域	<ul style="list-style-type: none">• OS のバージョンとビットネス• .NET Framework のバージョン• その他、自動化可能なブラウザや Citrix 環境などについて

詳細は下記をご参照下さい。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件 (Studio)

<https://docs.uipath.com/ja/studio/standalone/2022.10/user-guide/hardware-and-software-requirements>

ライセンスの種別と Studio/Robot の構成

- **ライセンスのアクティベーション方法**
- **Studio/Robot を Orchestrator に接続する方法**
- **ユーザーモードとサービスモード**
- **クイックインストールとカスタムインストール**
- **インストーラーの使用手順**

ライセンスのアクティベーション方法

Orchestrator への接続の有無により、アクティベーション方法が異なります。

ライセンスの種別	Orchestrator への接続	
	接続なし	接続あり
Community ライセンス	Studio をクイックインストールした場合のみサポートされます。	Orchestrator に接続するだけで、ライセンスがアクティベーションされます。
Enterprise ライセンス	弊社サポートより、アクティベーションキーを入手して下さい。	(Orchestrator 側にライセンスを導入しておく必要があります)
Enterprise トライアルライセンス		

※ ライセンスについては、下記をご参照下さい。

<https://www.uipath.com/ja/community-blog/knowledge-base/license-update>

以降の説明は、Orchestrator へ接続して Studio/Robot を利用する前提で記載します。

Studio/Robot を Orchestrator に接続する方法

マシンごとに、対話型サインイン認証か、クライアント資格情報のいずれかで接続して下さい。

接続の用途と手順	対話型サインイン認証	マシンキー認証	クライアント資格情報
Studio/Attended Robot の接続に	◎ 推奨	△ 非推奨	○ 利用可能
Unattended Robot の接続に	× 利用不可	△ 非推奨	◎ 必須
設定手順	<ul style="list-style-type: none">ユーザー情報の登録のみ	<ul style="list-style-type: none">ユーザー情報の登録Orchestrator に追加したマシンテンプレートから払い出したマシンキーをAssistant に設定	<ul style="list-style-type: none">ユーザー情報の登録Orchestrator に追加したマシンテンプレートから払い出したクライアントID/シークレットをAssistant に設定
接続手順	手動 (ユーザーがブラウザでOrchestrator にサインイン)	自動	自動

※ 適切な接続方法の選択については、Orchestrator 導入ステップバイステップガイドの p.33 をご参照下さい。
<https://www.uipath.com/ja/community-blog/knowledge-base/orchestrator-installation-guide>

ユーザーモードとサービスモード

インストール時に選択が必要となる、重要なオプションです。

Unattended として利用する Robot は、サービスモードでインストールしてクライアント認証情報を構成する必要があります。

		インストール時のオプション	
		ユーザーモード	サービスモード
利用できる認証方法	対話型サインイン※1	○ 利用可能	△ クライアント認証情報を構成後に利用可能
	マシンキーまたはクライアント資格情報※2	○ 利用可能	◎ 必須
Assistant の設定変更にマシンの管理者権限が必要か ※3		不要	必要
Unattended としての利用 (Robot サービスが Windows にログイン)		△非推奨	○ 利用可能

※1 Orchestrator のテナント設定で、対話型サインインを有効にする必要があります。

※2 Orchestrator でマシンテンプレートを作成し、マシンキーまたはクライアント資格情報を払い出して下さい。

※3 Orchestrator 接続設定や、マシンキーまたはクライアント資格情報、ログレベルの設定などについてです。

マシンキーとクライアント ID の違い

マシンキー認証は、よりセキュアなクライアント資格情報で置換されました。

クライアントID ではクライアントシークレット（パスワード）も払い出されます。
クライアントシークレットは、払い出した時のみ表示され、以後は確認できません。

	マシンキー	クライアント資格情報
マシントEMPLATEから 払い出される内容	マシンキーのみ	ID とシークレット（パスワード）
ひとつのマシントEMPLATE から払い出せるキー/資格情 報の数	ひとつだけ	払い出せる ID はひとつだけだが、 そのシークレットは複数を出せる
払い出したマシンキー/ID の無効化	マシンキーを無効化すると、そのマシ ンキーで構成された Robot PC はすべ て OC に接続できなくなる	シークレットごとに無効化できるため 柔軟な運用が可能

ユーザーモードとサービスモード

企業（Enterprise）で使用される場合は、サービスモードでのインストールをお勧めします。

	ユーザーモード	サービスモード
インストールディレクトリ	%LocalAppData%\Programs 配下	%ProgramFiles% 配下（変更可能）
Studio/Robot を利用できるユーザー	インストールした人のみ	このマシンのすべてのユーザー
インストール時のローカル管理者権限	不要	必要
Unattendedとしての利用	不可	可能

ユーザーモードとサービスモードの詳細は、下記を参照して下さい。

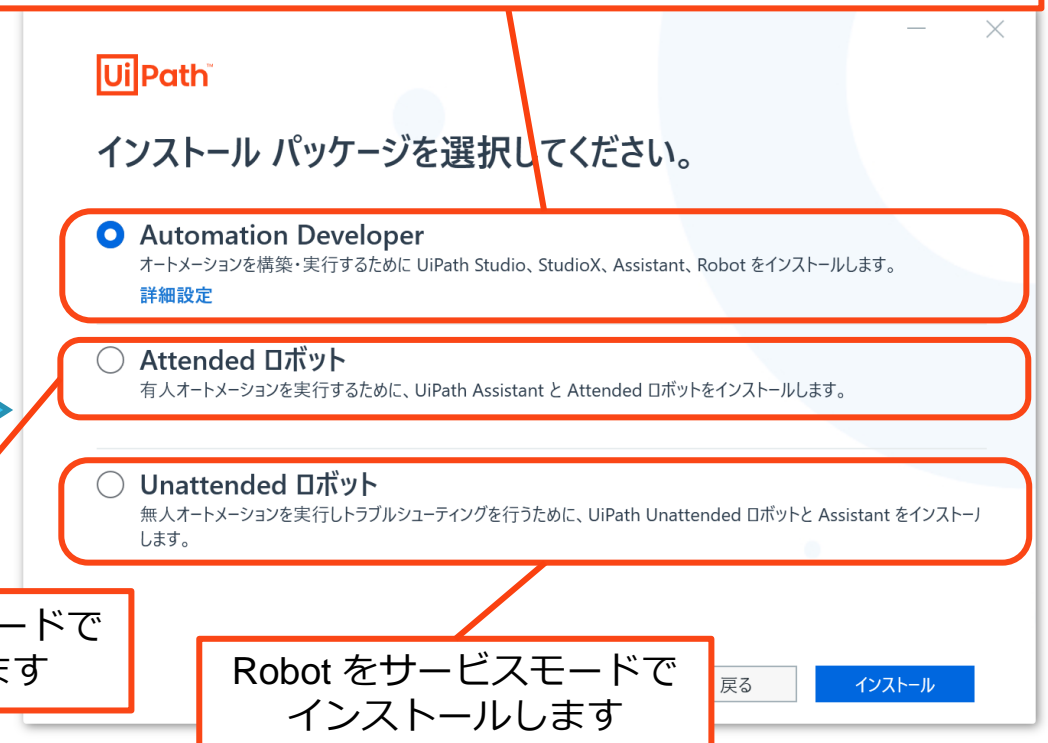
<https://docs.uipath.com/ja/studio/standalone/2022.10/user-guide/install-studio>

インストーラーの使用手順

インストーラーでは、クイックとカスタムを選択できます。カスタムでは、インストールパッケージを選択できます。

Studio と Robot をユーザーモードで
%UserProfile% にインストールします

Studio と Robot をユーザーモードで
%ProgramFiles% にインストールします
詳細設定をクリックすると、サービスモードを選択できます



Robot をユーザーモードで
インストールします

Robot をサービスモードで
インストールします

旧インストーラーについて (v20.10)

v20.10 以前をクイックインストールするには、UiPathStudioSetup.exe を
カスタムインストールをするには、UiPathStudio.msi を使います。



Studio と Robot をユーザーモードで
%ProgramFiles% にインストールします
詳細設定をクリックすると、サービスモードを選択できます

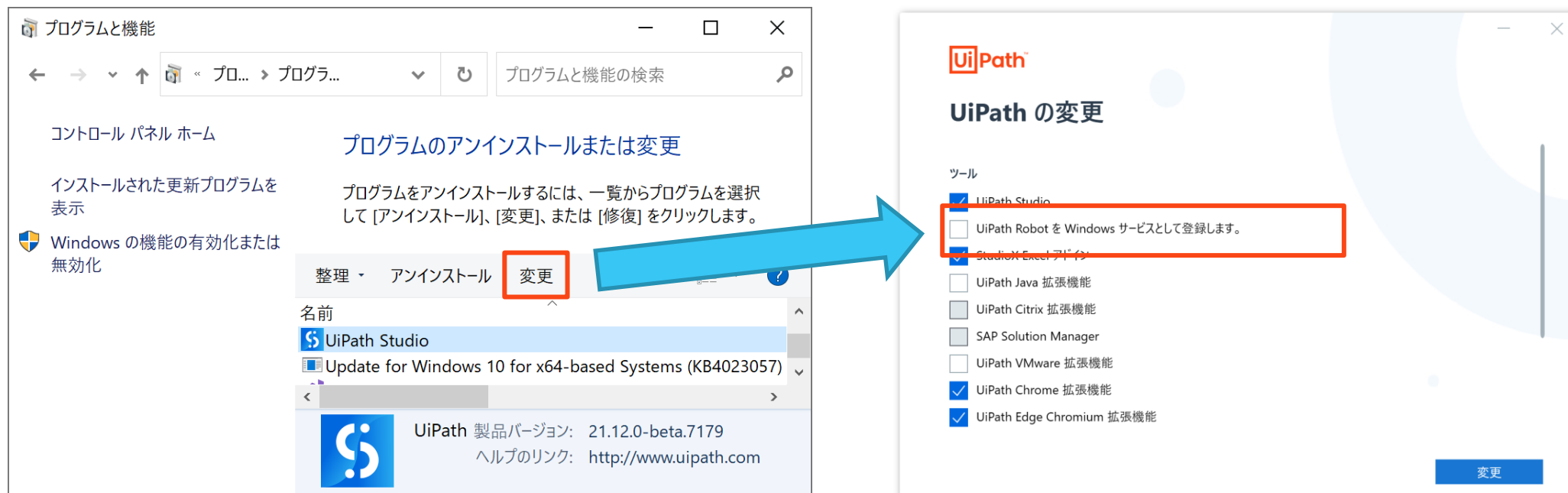
Robot をユーザーモードで
インストールします

Robot をサービスモードで
インストールします

ここでは、UiPathStudio.msi v20.10 の使い方を示しました。
なお v21.10 では、UiPathStudioSetup.exe は UiPathStudio.msi に統合されました。

ユーザーモードとサービスモードの切り替え

カスタムでインストールした Studio/Robot であれば、インストール後にコントロールパネルから切り替えできます。



※ クイックインストールした Studio/Robot のモードを切り替えるには、いちどアンインストールしてからカスタムで再インストールして下さい。

<https://docs.uipath.com/ja/robot/standalone/2022.10/user-guide/nuget-packages-not-accessible-after-migration>

トラブルシューティング

下記WEBガイドをご参照下さい。このページの内容はWEBガイドからの抜粋です。
<https://docs.uipath.com/ja/studio/standalone/2022.10/user-guide/about-troubleshooting>

よくある問題	原因	対処方法
Studio のステータスバーに「Robot のエラー」と表示される。Assistant にプロセスリストが表示されない	v2020.04 より、Studio/Assistant を管理者権限で実行した場合には Robot サービスと通信できません。	Studio/Robot を、Robot サービスと同じ特権レベルで実行します。
自動化プロセスの実行が遅い？	クイックインストールした場合のインストール先 %LocalAppData%\UiPath が信頼されない場所であるため、ログ出力のたびに Windows Defender がログファイルをスキャンします。	Windows の[ウイルスと脅威の防止] 設定で、%LocalAppData%\UiPath を除外します。
ユーザーモードからサービスモードに切り替えた後、自動化プロセスを実行できなくなった	.nuget キャッシュフォルダ内に展開されたファイルの所有権が、サービスアカウントになっているため読み込むことができません。	.nuget キャッシュフォルダーを削除します。 https://docs.uipath.com/ja/robot/standalone/2022.10/user-guide/nuget-packages-not-accessible-after-migration

Orchestrator に接続する手順

- 対話型サインイン認証
- クライアントID認証

※ Automation Cloud に接続し、モダンフォルダーを使って構成する手順を説明します。
オンプレ版の Orchestrator に接続する手順については、ユーザーガイドをご参照下さい。

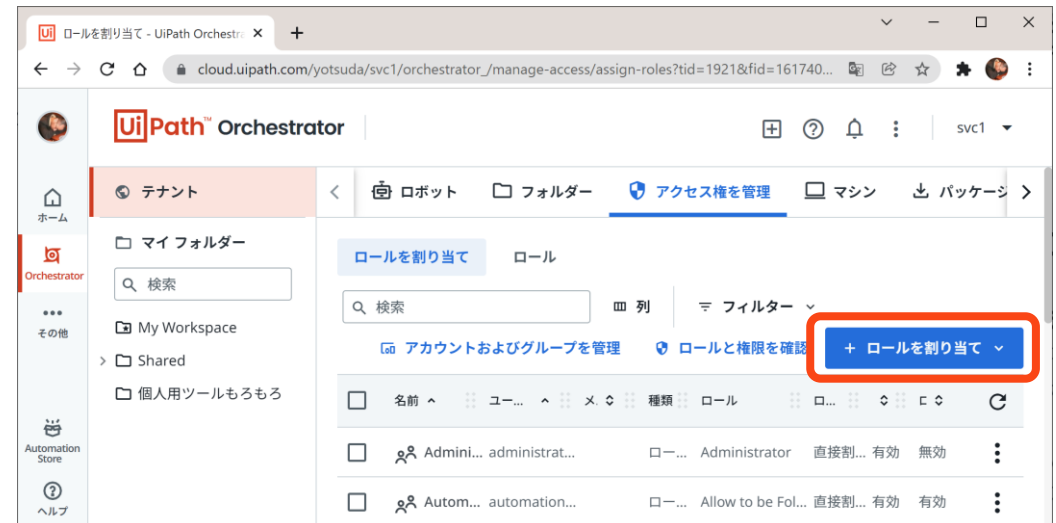
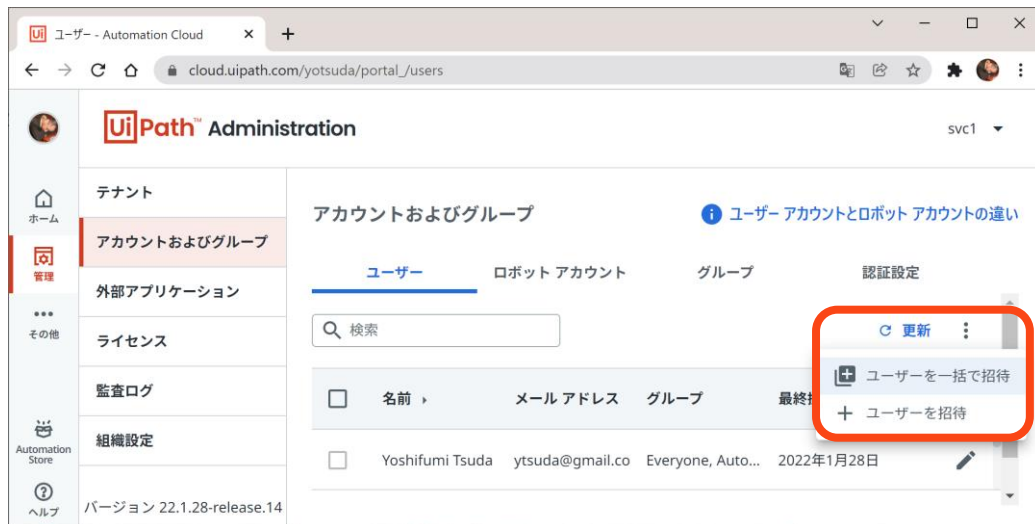


対話型サインイン認証を構成する

当該のユーザーをOrchestrator に登録するだけで構成が完了します。
その後必要に応じ、ユーザへのアクセス権限付与や、Attendedの有効化をします

① [管理] → [アカウントおよびグループ] で
ユーザーを招待

② Orchestrator の [アクセス権を管理] で
当該のユーザーに適切なロールを付与
③ このユーザーを編集し、Attended を有効化



※ テナントの設定で、対話型サインインを有効にして下さい。

※ ロボットアカウントとは、ユーザーを招待することなく作成できるUnattended 専用のアカウントです。

※ 対話型サインイン認証では、Attended のドメイン¥ユーザー名は使用しません。（無視されます）

対話型サインイン認証で接続する

Orchestrator に接続することにより、ライセンスをアクティベーションできます。

Studio から接続する場合

The screenshot shows the '利用を開始する' (Get started) screen in UiPath Studio. It features three main options: 'サインイン' (Sign in), 'Orchestrator に接続' (Connect to Orchestrator), and 'スタンドアロン オプション' (Standalone option). A callout box at the top left states that conversational sign-in is not available in service mode. Another callout points to the 'サインイン' option, explaining that it is used for activation when enabled by an administrator. A third callout points to the 'Orchestrator に接続' option, stating that it is used for activation without connecting to Orchestrator by providing a license key.

対話型サインインで接続
(サービスモードでは無効)

サインイン
管理者により [サインイン] オプションが有効化されている場合は、このオプションを使用してライセンスを取得します。サインインすると、Orchestrator を含むすべてのサービスに自動的に接続されます。

Orchestrator に接続
管理者から Orchestrator URL とマシン キーを提供された場合は、このオプションを選択して Studio のライセンスを取得し、利用を開始します。

スタンドアロン オプション
スタンドアロンの Enterprise または無料評価版ライセンス キーを受け取った場合や、Cloud アカウントを持たない Community Edition ユーザーは、このオプションを使用してライセンスを取得し、利用を開始します。

マシンキーまたはクライアント資格情報で接続

Orchestrator に接続せず
ライセンスキーでアクティベーション

Assistant から接続する場合

The screenshot shows the UiPath Assistant sign-in screen. It features a 'サインイン' (Sign in) button highlighted with a red box. Below it is a link for 'オフラインを継続' (Continue offline). At the bottom, there is a search bar with the placeholder text 'ここに入力して検索' (Enter text here to search).

サインイン

オフラインを継続

UiPath Assistant をオフライン モードで使用できます。

同じマシンの Studio と Robot は、Orchestrator との接続状態を共有します。

クライアント ID 認証を構成する

クライアントID認証で Studio/Robot を Orchestrator に接続する手順です。

- ① ユーザーの設定で、Robot を有効化
- ② マシントEMPLATEを追加
- ③ 払い出したクライアントID/シークレットを、Assistant に設定
- ④ ユーザーを、フォルダーに割り当て
- ⑤ (Unattended の場合) マシントEMPLATEを、フォルダーに割り当て

① ユーザーの設定で、Robot を有効化

対話型サインイン認証と同じ手順でユーザーを招待してロールを割り当てたら、このユーザーを編集して Attended もしくは Unattended を有効にしてください。

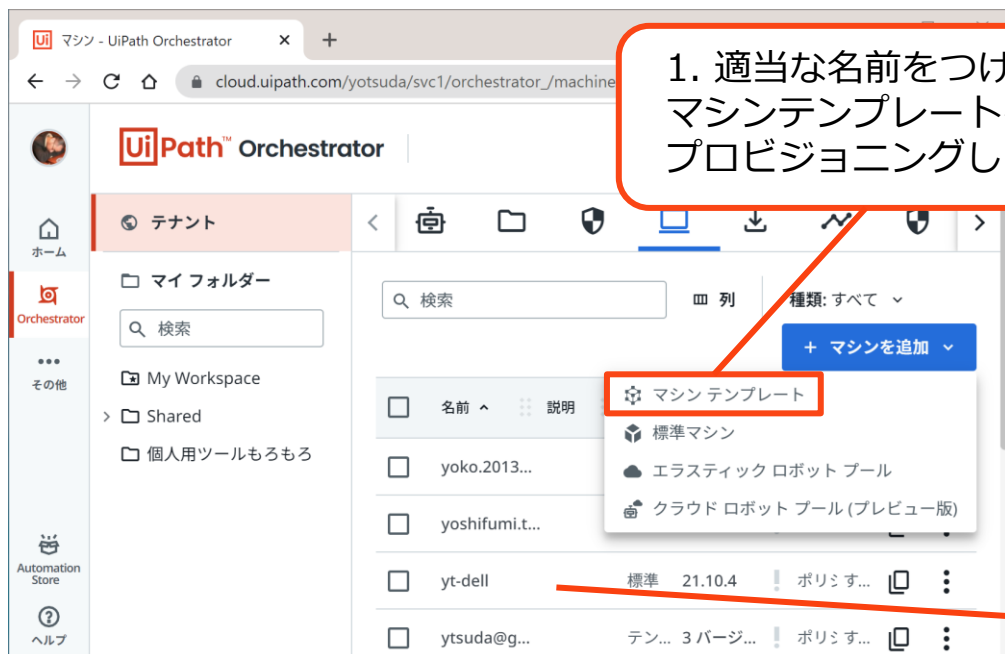
このユーザーで Studio/Attended として利用するには、ここを有効にして、ドメイン¥ユーザー名を設定して下さい

このユーザーで Unattended として利用するには、ここを有効にして、ドメイン¥ユーザー名とパスワードを設定して下さい。Robot は、この資格情報を使って Windows にログインします

※ 当該のユーザーのドメイン名を確認するには、このユーザーで Windows にログインし、コマンドプロンプトで whoami コマンドを実行します。

② マシンテンプレートを追加

ひとつのマシンテンプレートで、複数の Studio/Robot マシンを構成できます。



※ 個人用ワークスペースが有効化されていれば、既定で <お名前>'s workspace という名前のマシンテンプレートが作成されます。Studio/Attended 向けには、これをそのまま使用して下さい。
(この場合、マシンテンプレートの追加は不要です)

2. 作成したマシンテンプレートを開き、クライアントID/シークレットを払い出します。シークレットを確認できるのは払い出したときのみです。もし、シークレットを忘れてしまったら、別のシークレットを払い出すことができます

③ 払い出したクライアントID/シークレットを Assistant に設定

払い出されたクライアントID/シークレットを、Assistant に設定して下さい。

The screenshot shows the 'UiPath 設定' (UiPath Settings) window. The left sidebar contains navigation options: '全般' (General), 'キーボードショートカット' (Keyboard Shortcuts), 'Orchestrator の設定' (Orchestrator Settings), 'スタートパッド' (Start Pad), 'ツール' (Tools), and 'ヘルプ' (Help). The 'Orchestrator の設定' section is active and contains the following fields:

- 接続の種類** (Connection Type): A dropdown menu with 'クライアントID' (Client ID) selected.
- Orchestrator URL**: A text input field with a dropdown arrow.
- クライアントID**: A text input field.
- クライアントシークレット**: A text input field.
- 接続**: A button.

Below the input fields, the status is shown as 'ステータス: ● 接続が切断されました' (Status: ● Connection disconnected). At the bottom, there is a 'ログ' (Log) section with a 'ログレベル' (Log Level) dropdown set to 'Information'. A note at the bottom states: 'オートメーションの実行中に出力される情報ログには、機密データが含まれている可能性があります。詳しくは、Assistant のドキュメント をご覧ください。' (Information logs output during automation execution may contain sensitive data. For more details, see the Assistant documentation.)

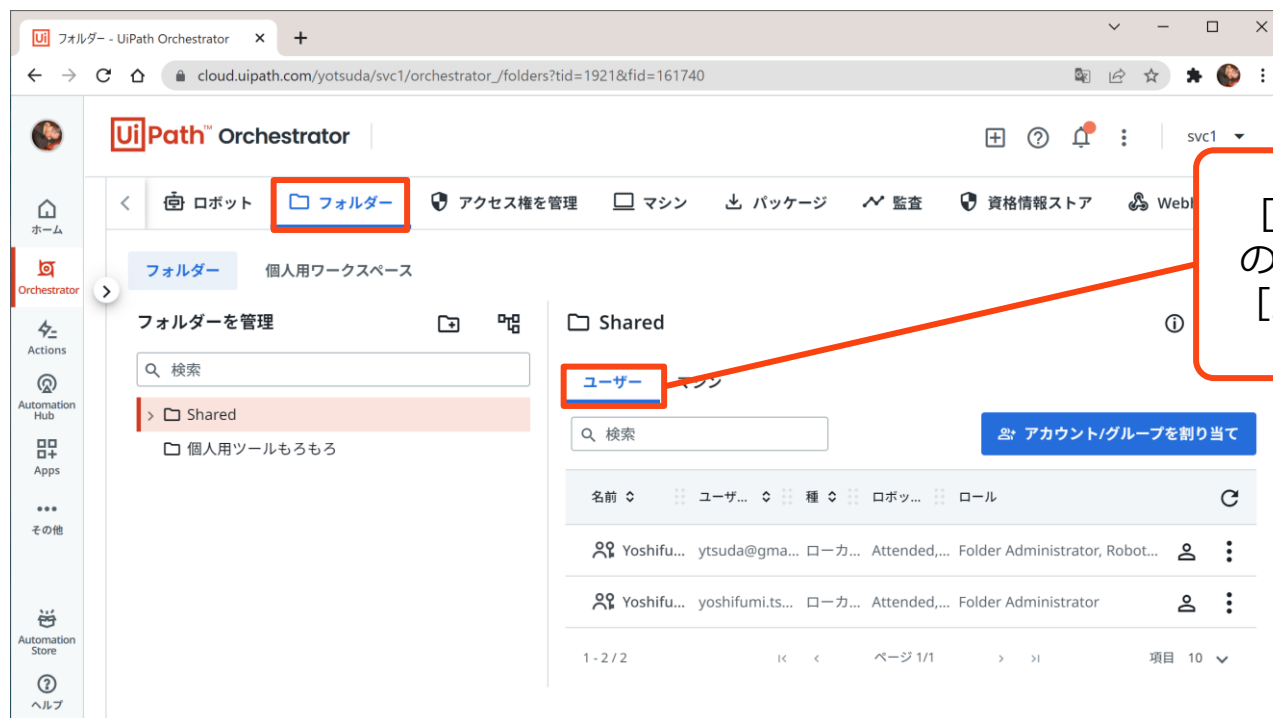
接続の種類を [クライアントID] として URL とクライアントID/シークレットを入力し、 [接続] をクリックします

ひとつのマシテンプレートから、複数の ID/シークレットを払い出せます。

同じ ID/シークレットは、複数の Assistant で共有できますが、適切な単位で複数の ID を払い出しておくことをお勧めします。

④ ユーザーを、フォルダーに割り当て

これにより、このフォルダーにあるプロセスが Assistant で利用可能になります。
また、アセットやキューが Studio で利用可能になります。

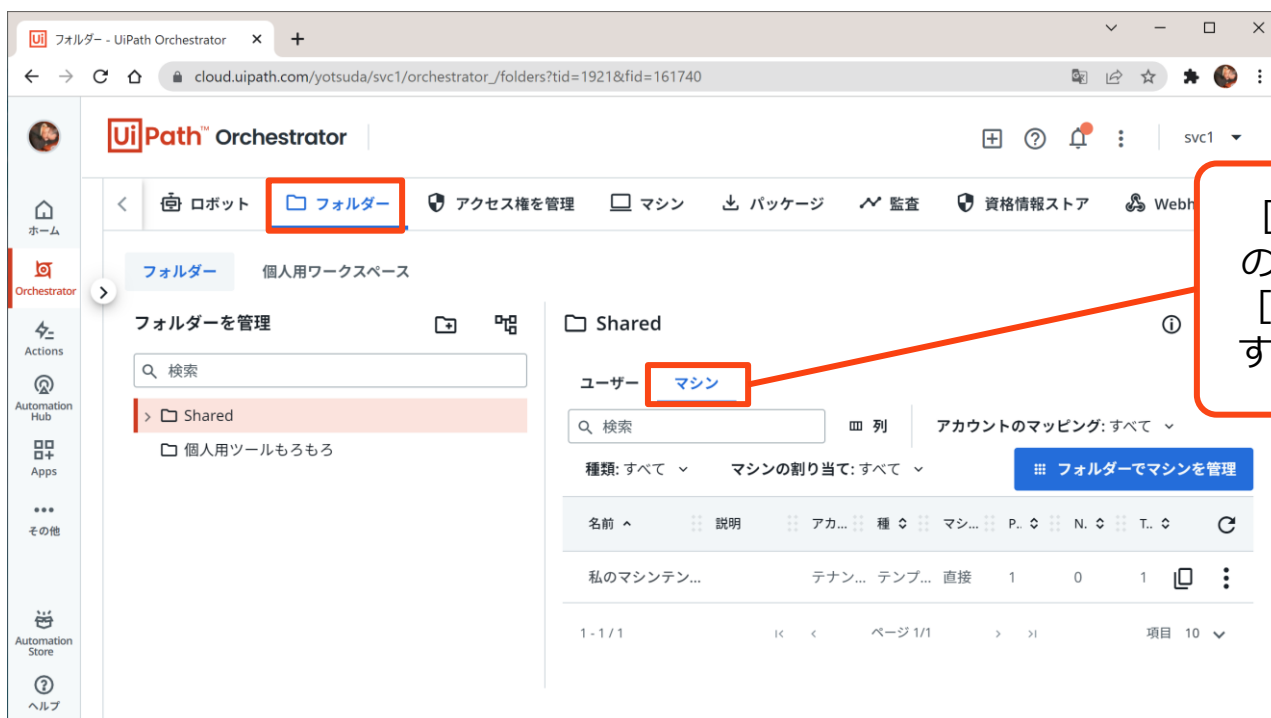


[🌐 テナント] の [📁 フォルダー] 画面で当該のフォルダーを選択して下さい。
[ユーザー] タブでユーザーを割り当てます。

「<お名前>'s workspace machine」のマシントプレートは、既定で個人用ワークスペースフォルダーに割り当てられています。

⑤ マシンテンプレートを、フォルダーに割り当て

Unattended として利用する場合には、当該のマシンテンプレートもフォルダーに割り当てて下さい。このマシンで、プロセスをスケジュール実行できます。



[テナント] の [フォルダー] 画面で当該のフォルダーを選択して下さい。
[マシン] タブでマシンテンプレートを割り当てます。

「<お名前>'s workspace machine」のマシンテンプレートは、既定で個人用ワークスペースフォルダーに割り当てられています。

Orchestrator 側に Studio/Robot の ライセンスを割り当てる手順

- 利用できるライセンスの総数を確認
- Studio/Attended に割り当て
- Unattended に割り当て

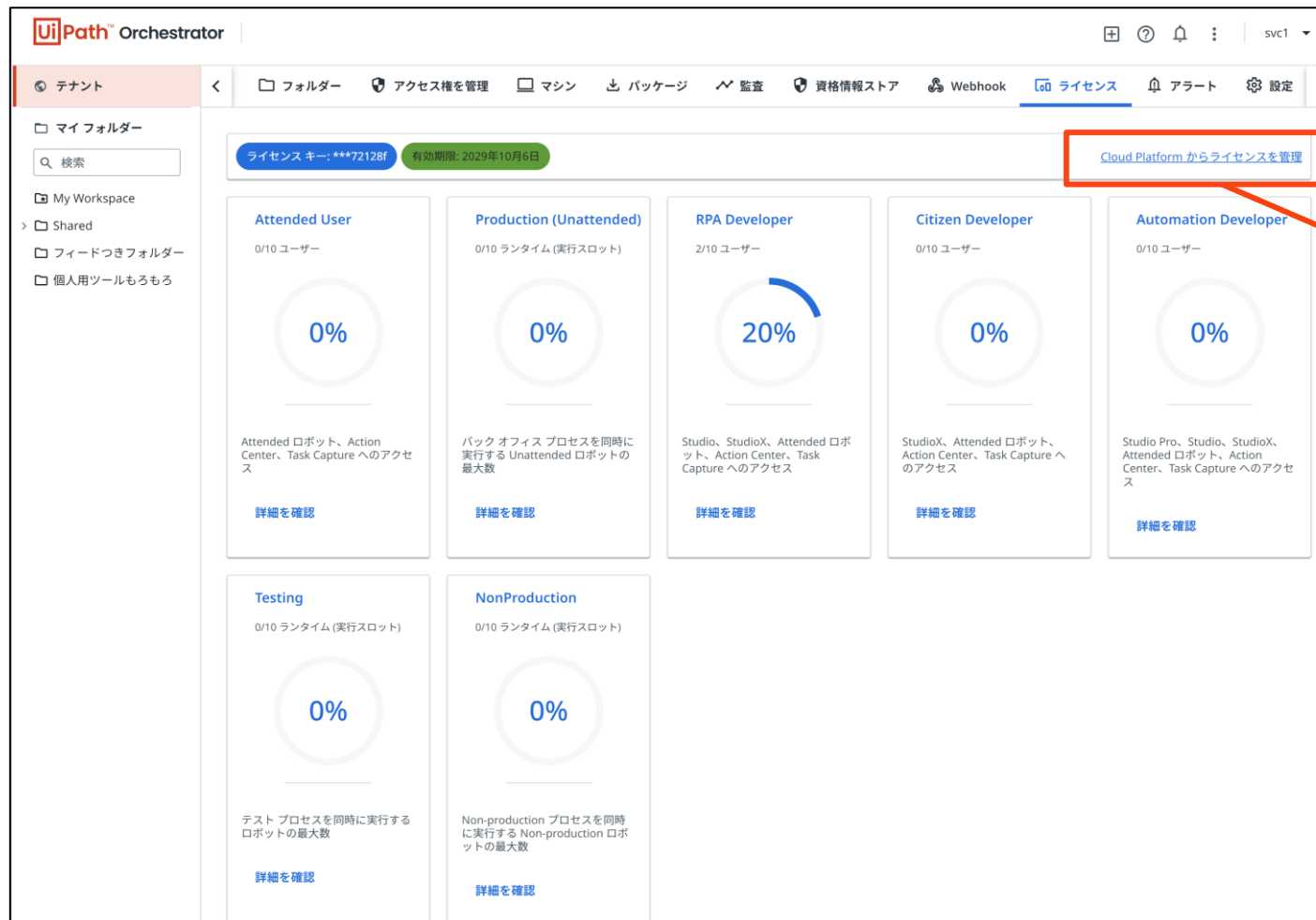
ライセンスの割り当て

オンラインアクティベーションを使う場合は、Orchestrator 側でライセンスを割り当てておく必要があります。

1. 利用できるライセンスの総数を確認
2. ライセンスを Studio/Attended ユーザーに割り当て
3. ライセンスを Unattended マシンに割り当て

1. 利用できるライセンスの総数を確認

[テナント] → [ライセンス] で確認できます。



ライセンスが不足する場合は、
ここから追加できます

2. ライセンスを Studio / Attended ユーザーに割り当て

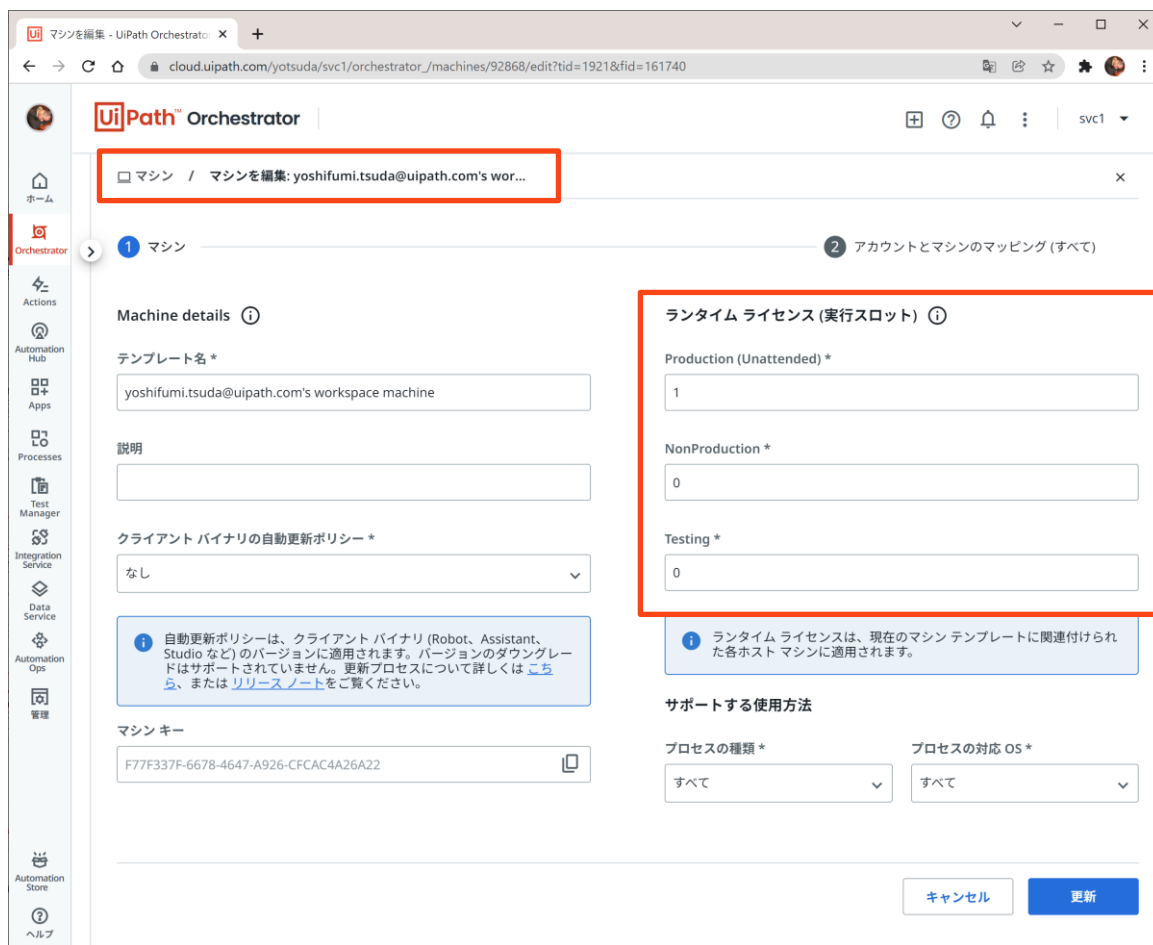
当該のユーザーの Attended の設定に、ライセンスを割り当てます。

The screenshot shows the 'Assign Roles' page in the UiPath Orchestrator interface. The breadcrumb navigation at the top reads 'アクセス権を管理 / ロールを割り当て / 編集: Yoshifumi Tsuda'. The page is divided into 'Attended Robot' and 'Unattended Robot' sections. In the 'Attended Robot' section, the '有効' (Enabled) toggle is turned on. Under '設定' (Settings), the checkbox 'このユーザーの個人用ワークスペースを有効化' (Enable personal workspace for this user) is checked. The 'ドメインユーザー名' (Domain user name) field contains 'autogenyoshifumi.tsuda@uipath.com_local'. Below this, the 'ライセンスの種類' (License type) section is highlighted with a red box. It contains five radio button options: 'ユーザーグループからの継承ライセンス' (Inherited license from user group), 'Attended User', 'Citizen Developer', 'RPA Developer' (which is selected), and 'Automation Developer'. At the bottom of the page, there are buttons for 'キャンセル' (Cancel), '戻る' (Back), '次へ' (Next), and '更新' (Update).

アクセス権を管理画面から、当該のユーザーを編集し
ライセンスの種類を選択して下さい。

3. ライセンスを Unattended マシンに割り当て

当該のマシスキーにライセンスを割り当てます。



ひとつのマシンテンプレートで複数の Robot マシンを接続できますが、その場合でもここにはライセンスを1つだけ割り当てて下さい。これにより、各マシンに1つずつのライセンスが割り当てられます。
(高密度ロボット※を構成する場合に、2以上を割り当てます)

※ 高密度ロボットとは、1台のサーバーOS上で複数のロボットを同時に動作させる構成です

パッケージの操作

- パッケージファイルとは
- パッケージファイルの種別・管理
- フィードの構成

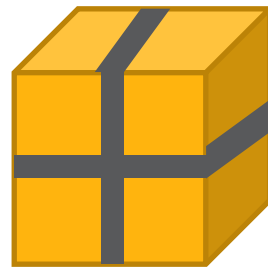


パッケージファイルとは

UiPath の自動化は、パッケージファイルの形式で Robot マシンに配布されます。

パッケージファイル

- 拡張子が .nupkg のファイル（実は zip 形式で圧縮されたファイル）
- Robot で実行可能
- ファイル名にバージョン番号が付与され、バージョン管理される
- 実行前に unzip され、Robot マシンの
%UserProfile%\%.nuget\¥Packages フォルダに展開される



パッケージファイルの種別

プロセスとライブラリ（アクティビティ）の2種類があります。

プロセスパッケージ



- Robot で実行可能な自動化の単位
- この実行には、複数のライブラリが必要
- 必要なライブラリは、プロセスごとに異なる
- 例: 経費精算.1.0.5.nupkg
(↑この名前「経費精算」が、そのまま Assistant に表示されます)

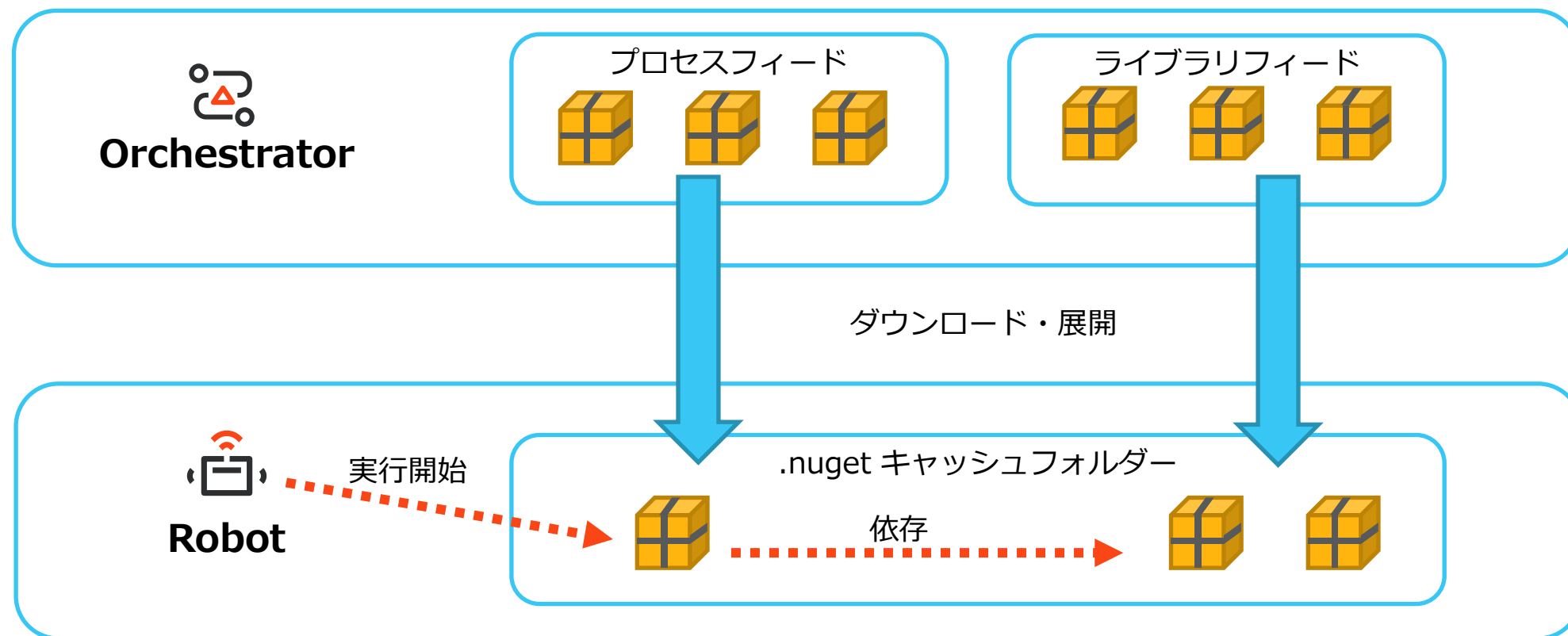
ライブラリパッケージ (アクティビティパッケージ)



- 単体では実行できない
- Studio/Robot に既定で同梱されているほか、多くのライブラリがネットから取得可能
- ユーザーも、Studio で簡単に作成できる
- 例: UiPath.Excel.Activities.2.11.4.nupkg
UiPath.PDF.Activities.3.4.1.nupkg
共通部品.2.0.1.nupkg

パッケージファイルの管理

プロセスとライブラリは、それぞれ別のフィードで管理されます。



※ 多くのライブラリも、別のライブラリに依存します。

Orchestrator 側のフィード

テナント上に、プロセスフィードとライブラリフィードがひとつずつ用意されています。

The screenshot displays the UiPath Orchestrator web interface. Two red callout boxes are present: one labeled 'プロセスフィード' (Process Feed) pointing to the 'パッケージ' (Package) tab, and another labeled 'ライブラリフィード' (Library Feed) pointing to the 'ライブラリ' (Library) tab. The main content area shows a table of packages and libraries with columns for name, description, execution type, supported OS, and publication date.

名前	説明	実行の種類	対応 OS	パブリ...
AssetPath	Blank Process	未指定	Windows - レ...	6ヶ月前
attended	空のプロジェ...	有人	Windows - レ...	2ヶ月前
BlankLibrary	Blank Library	無人	Windows - レ...	3ヶ月前
case	空のプロジェ...	無人	Windows - レ...	1ヶ月前
DebugTest	空のプロジェ...	無人	Windows - レ...	2ヶ月前

ホストテナントのライブラリフィードを使用することにより、すべてのテナント共通で使用することもできます。

プロセスフィードの追加

テナントのプロセスフィードとは別に、フォルダーにもプロセスフィードを付与できます。

- さまざまなデータを分類して管理するため、Orchestrator 上にはフォルダーを作成できます。
- フォルダーの作成時に、このフォルダー専用のプロセスフィードの有無を指定できます。
- フィード付きのフォルダーに割り当てることができるのは、そのフィードにあるプロセスだけです。※

※ 通常の（フィードをもたない）フォルダーには、テナントフィードにあるプロセスを割り当てて下さい。

新しいフォルダー

名前 *

新しいフォルダー

説明

プロセス パッケージのソース

テナントのパッケージ フィード

このフォルダー専用の新しいパッケージ フィードを作成

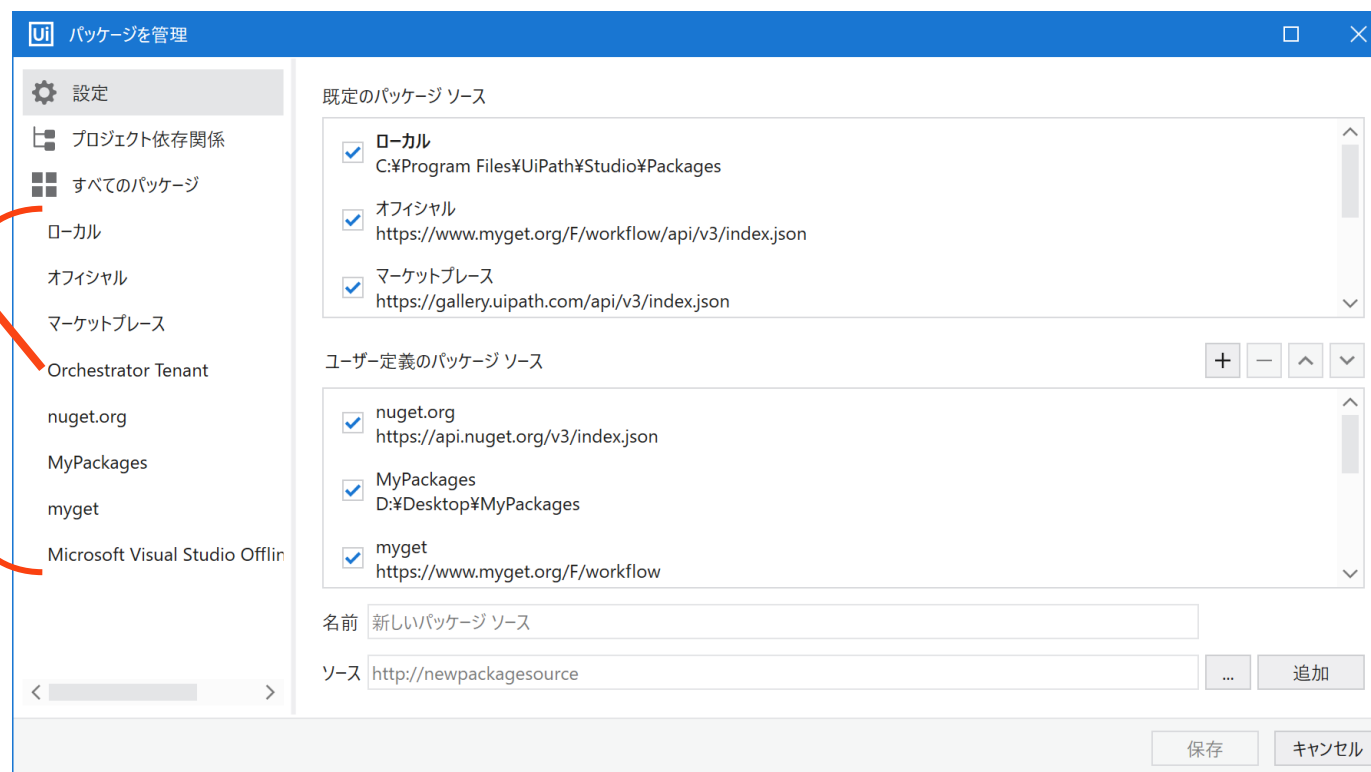
キャンセル 作成

Studio/Robot 側のライブラリフィード設定

複数のライブラリフィードを、Studio/Robot 側で構成できます。

- Orchestrator のテナントに、ライブラリ用フィードがひとつ用意されています。
- そのほか、複数の場所にライブラリフィードを構成できます。
- Studio のフィード設定は、Assistant と共通です。
(Unattended は異なるユーザーでの運用が普通であることにご留意ください)

(Studio のパッケージ管理画面)



Robot が実行できるプロセス

下記の場所にあるプロセスが Assistant に表示され、実行可能となります。

Orchestrator との接続	Assistant に表示され、実行できるプロセス
接続あり	この Studio/Robot が割り当てられている Orchestrator 上のフォルダーに割り当てられた プロセスパッケージ全て※1
接続なし	この Studio/Robot マシンの下記フォルダーにある プロセスパッケージ全て C:¥ProgramData¥UiPath¥Packages※2

※1 テナントにパブリッシュしたプロセスは、フォルダーに割り当てることで実行可能となります。

※2 既定の設定です。UiPath.Settings で変更できます。

<https://docs.uipath.com/ja/robot/standalone/2022.10/user-guide/uipathsettings-file-description>

補足

- 主なディレクトリ・設定ファイル
- バージョンアップに係るパッケージ管理
- プロジェクトの対応OS



補足: 主なディレクトリ

Studio/Robot の主なディレクトリを列挙します。

用途	ディレクトリ
インストールディレクトリ	ユーザーモード: %LocalAppData%\¥Programs サービスモード: %ProgramFiles% もしくは指定したディレクトリ
製品に同梱のアクティビティパッケージ (既定のローカルフィード)	インストールディレクトリ配下の Studio¥Packages
パッケージファイルの展開先 (nuget キャッシュ)	%UserProfile%\¥.nuget¥packages
オフライン時のプロセスパッケージ (既定のパブリッシュ先)	C:¥ProgramData¥UiPath¥Packages
プロジェクトを保存する既定の場所	%UserProfile%\¥Documents¥UiPath
ログファイルの出力先	%LocalAppData%\¥UiPath¥Logs

- ※ インストールディレクトリ以外は、クイックインストールとカスタムインストールで共通です。
- ※ プロジェクトフォルダーは、定期的にバックアップして下さい。Git で管理することをお勧めします。
- ※ Orchestrator に接続している場合、ロボットの実行ログは Orchestrator にも送信されます。

補足: 主な設定ファイル

Studio/Robot の主な設定ファイルを列挙します。

設定	ファイル名
自動化プロセスの実行ログ	NLog.config
Studio のログ	Studio.NLog.config
NuGet フィード	NuGet.config
プロキシ設定、対話型サインイン URL など	uipath.config

- ※ インストールディレクトリ以外の場所は、クイックインストールとカスタムインストールで共通です。
- ※ プロジェクトフォルダーは、定期的にバックアップして下さい。Git で管理することをお勧めします。

既存のプロセスパッケージと、アクティビティ/ライブラリパッケージの管理を示します。

- 既存のプロセスパッケージは、そのまま新しいバージョンの Robot で実行できます。新しい Studio でパブリッシュし直す必要はありません。
- Studio 環境で利用可能なライブラリと、既存のプロセスで利用中のライブラリが、すべて Robot 環境のフィードに配置され利用可能となるように留意して下さい。
- 既存のプロセスが使用しているライブラリは、その必要がない限りは新しいバージョンに変更しないで下さい。変更した場合は、そのプロセスの動作を再テストして下さい。

パッケージ管理の詳細については、下記をご参照下さい。

パッケージの管理方法について

<https://www.uipath.com/ja/community-blog/knowledge-base/how-to-manage-packages>

補足: プロジェクトの対応OS

Studio 21.10以降では、新規プロジェクト作成時に対応OSを選択できるようになりました。プロセスとライブラリで、揃っている必要があることにご注意下さい。

新しい空のプロセス

新しい空のプロセス
空のプロジェクトで始めて、新しいオートメーション プロセスをデザインします。

名前 * 空のプロセス

場所 * C:\Users\username\UiPath

説明 空のプロジェクト

対応 OS ② Windows - レガシ

言語 Windows - レガシ
Windows
クロスプラットフォーム

対応OS	説明
Windows - レガシ	<ul style="list-style-type: none">.NET 4.6.132-bit (Windows 32bit/64bit 上で実行可能)コンパイルされない任意のバージョンの Robot で実行可能
Windows	<ul style="list-style-type: none">.NET 5 or 664-bit (Windows 64bit 上で実行可能)パブリッシュ時にコンパイルされ、高速で実行されるRobot 21.10 以降でのみ実行可能
クロスプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none">.NET 5 (クロスプラットフォーム対応)64-bit (Windows/Linux 64bit 上で実行可能)パブリッシュ時にコンパイルされ、高速で実行されるRobot 21.10 以降でのみ実行可

